兄上様、右の言葉はクリストが罪人、取税人と共に食し給ふのを、パリサイ人なる學者達が見て、其の弟子達に「何故取税人(ローマよりユダヤの地方に派遣せられて、當時蛇蝎視せられたる酷吏)、罪人(此の場合刑法上のみならず)精神的道德の破倫漢をも含むものと解せられたし)と共に食するか」と聞いたのに對する答であります。

兄さん、兄さんの刑法上の罪惡は左程のものではないがも知れませぬ。然し兄さん私は兄さんの御手紙を家の兄から見せて頂きまして、靜かに考へた時に、兄さんの今度の罪惡は少くとも精神的に道德的に實に許し難いものがあると思ふのであります兄さんの後悔懺悔が大なれば大なるだけ、其の罪は深いものと察せられます。兄さんは罪人であります、而して弟なる私は決して救道者ではありません、勿論兄さんの罪を審判する判官でもありませぬ。たゞ病ある兄さん、罪人なる兄さんを招かん爲めに生れた超人間的のものと考へて下さい。「悔い改めよ、さらば汝の罪は許されん」と云ひ得る靈力を具へたキリストでさへも、姦淫した女を見て「吾も汝を罰せじ、往け、

此の後、再び罪を犯すなかれ」と敎へて居るのではありませんか。兄さんが罪人であるが爲めに、弟の靈のひらめきが神の御手を通して達したるものと御考へ下さるなれば一層の幸と存じます。

兄さん、私は獄舍の內部はスッカリ存じて居ります。兄さんの現在の食事も、作業の樣子も(たとへそれが何業であろうとも)勤務の狀態も、すべて目の前に浮べることが出來ます。そして兄さんの現在の生活が、眞面目な百姓の生活に比べて、身體上には決して苦痛でないことを信じて居ります。又猛惡なる罪人を取締るべく儼然たる獄吏のあると共に、釋迦か基督の溫情に依りてはぐくまれた優しい敎誨師の居らるゝことをも存じて居ります。兄さん、どうぞ敎誨師の敎誨に心を留めて下さい。例の兄さんの輕々しい調子で五ケ年を經過なさるならば、兄さんの罪は、より深いものとなつてしまいます。否、私は此の機會に兄さんの性格の大改造の行はれることを信じて居ります。アノ御手紙を書く時の心持を以て敎誨堂に臨んで下さい。如何なる人の敎

誨でも、その言ふ所は、すべて古聖賢の眞埋であり、人間の精神生活の糧食であります。兄さんが其の氣持になり得た時に兄さんの罪はキレイに洗ひ去られたもの、決して放免の日を待つ必要はないのであります。

私は考へます、兄さんの罪を構成した原因に二つあると。一つは外的原因であつて家庭の罪と社會の罪であります（此際でありますから失禮を顧みず、私――繰返して申しますが、私とは弟としてゞなく）家庭の罪とは何か、これは、先づ御兩親樣の幼時からの教育法に缺陷があつたことゝ存じます。是に就ては私は批評するだけの材料を持つて居りますが略して置きます。

次に家庭的原因より以上に有力な構成要素と考へられるのは社會的の原因であります。それは村の風紀そのものが既に〳〵腐敗して居るのが、最も有力な原因と考へられるのであります。猶く申せば兄さんの友人の罪、親戚連中の罪であります、斯く云ふ中には勿論弟としての私も含まれて居ります。なぜに二年前の兄さんに對して『あの遊び』をなさるゝことを知りつゝなぜ諫言を爲し得なかつたかと、自ら責めるのであります。

次に第二の原因は內的のものであつて、兄さんの意思の薄弱なこと、職業的興味のないことであります子供の父として、一家の經營者としての職分を本當に考へたならば、そこに動かすことの出來ない、明るい大道の見出されるものであります。敢て申しますが、御母上樣がどんな人格であるにせよ、御尊父樣がたとひ縣會議員の椅子を占めてたらるゝ方であるにもせよ、兄さんには兄さんの意見がありそうなものです。

又た姉上がどんな人間であるにしても妻に過ぎません。妻と云ふものは結婚早々自分の理想と合致するものではありません。然し一二年同棲する間に自分の思ふやうに訓練すべきものであります。現在の日本の制度は、此の妻の訓練は男子の必要なる義務であり又誇りではありませんか。要するに私が家庭の缺陷をこゝに揭げればならなくなつたのに、兄さんの意思の力が家庭の力に征服せられたからです。どうぞ兄さん放免後は兄さんの改まつた御性格を以て家庭を改造して下さい。姉さんを訓練して美しい家庭を作つて下さい。

次に兄さん、職業的興味と云ふ問題を書かして下さい。兄さん、社會の凡ての弊害は、此の職業に對する興味の薄くなつた時に起ると或る學者は申して居ります。兄さんが眞に農業を科學的に研究してやり、養蠶をあらゆる方面から研究してなされたならば、何んで夜遊びなど出られませう。職工が鐵を鍛へ、森を伐ることに深い興味を感じたならば藝者屋は必要がありません。反省された兄さん、改造された兄さんは必ずしも此の家業に對する一定の決心と方針とを以て進んで下さい。それには是非とも投機的な商買をやめて、眞面目なる百姓に成りきつて下さい。勿論私は舊式な「土掘り百姓」を好みませぬ。只あの純眞な兄さんの御子息を兄さんの父君以上に光ある堅

妻の弟より

實な農民として養育し得る親となり經營者となられむことを、偏へに願ふのであります。

／や正に眞夜半の午前二時、初秋の手傳と四日ばかりの淺間旅行の疲勞とにて結膜炎となり、目かすみ、筆意に任せず、理論もとより不整、只心に映り來るまゝを書き連ねて、獄中の御反省、出獄後の御計畫の一助ともと存じ申し返ります。

最後に申します。唯すまない！　面目ない！　では駄目ですよ、出てからの方針を確と考へて置いて下さい。

附錄

此たび勝友叢書の第八編が出來まするに就て監獄協會から審査の一員を命ぜられまして本書の原稿を數回拜見致しましたが、書面の眞情に動かされて幾度泣たか知れませぬ、現に其境遇に在る人々が本書を御覽になつたら定めし共鳴に堪へぬ事であらうと思はれます。私は更に諸子に向つて是非一讀をお勸めしたいのは此の附錄であります。之は小嘗の某生へ對し其の菩提寺の御住職にして而も現に其村の小學校の校長である富山と云ふ先生から送付せられた書翰である、私は二十年近くも此職に居りますが未だ嘗て斯んな親切な有難い飾り氣のない、徹底した書面を見た事がないのであります諸子が精細に眞面目に本文を御熟覽になつたら必らず何物かを得らるゝに違ひない事を自信致します　（鳥原靜乘）

菩提寺の住職より

禮讃文

人身受け難し、今已に受く、佛法聞き難し、今已に聞く、此身今生に向て度せずんば、更に何れの生に向てか此身を度せん、大衆もろともに至心に三寶に歸依したてまつるべし。

（會　衆）

㊀自ら佛に歸依したてまつる、當に願くば衆生とともに、大道を體解して無上意を發さん。

㊁自ら法に歸依したてまつる、當に願くば衆生とともに、深く經藏に入て、智慧海の如くならん。

㊂自ら僧に歸依したてまつる、當に願くば衆生とともに、大衆を統理して、一切無礙ならん。

無上甚深微妙の法は百千萬劫にも相遇ふこと難し、我今見聞し受持することを得たり、願くは如來の眞實義を解したてまつらん。

願くは此功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と、皆共に佛道を成せん、南無十方三世一切常住三寶哀愍救護したまへ。

菩提寺の住職より

今日お母さんが手に花を持つて寺へ來られた、珍らしい事だと思つてゐると、賴み度い事があるとの事、お經料金五十錢を佛前に供へ先祖の爲めお經を讀んで下さいとの事そして、其の理由はこれですと出された手紙があなたからお母さんへ七月一日に書いて送つた手紙です。其の手紙を一寸見た時直ぐ私の頭には云ふ可からざる感じがした、すまぬ樣な恥しい樣な感が一度に涌き出して來た、實を申すと私は北海道から歸る間もなくあなたの事を新聞で見て泣いたのであつた悲んだのであつた、內の同行から、この樣な人を出した事を思つて佛祖に對しまた世間に對し、また同行に對し私の顏向けが出來んと思つて悲しんだ、私が知らぬ事知らぬ人であるとは云へ同行の中から、しかも眞面目に働いてゐた人が心の狂いで百日の功を一簣に缺いたやうな行動をとりし事を少しも知らずにいた事が何となく責任を輕んじてゐたやうな心持がして悲しかつた。また私は北海道から歸つて此の北里に住む事になつてからは、どうかし

てみ佛の慈光を村内にうるほはしたいと思つて青年會やら少女會やら軍人會やらに對し、ひそかに出來るだけの手をのばし、機會さへあれば自分の思つてゐる御慈悲を少しでも傳へ度いと念じてゐた。然し村人は中々聞いてくれぬ、それで傳道者は故郷では用ゐられぬと思つて飛び出さうかとも思つた、然し其の時に嘗て讀んだ書籍「何所へ行く」を思ひ出して、えらい人にでもなつた樣な心で止まつてゐました、そして一人でもと念じてゐる時に自分の同行から二人までも大罪者を出したのであるから私の心には非常な打擊でした。

他の一人と云ふのはアノ平五郎です、これは獄中で肺病になつて歸りました、其時第一番に私を尋ねてくれました、哀れな顏、哀れな相、私は思はず泣きました、只お稱名をすすめるより外ありませんでした、然しもう平五郎は人を怨んでゐませんでした、いやな眼でながめる社會も怨んでゐませんでした、病氣になつた事も怨んでゐませんでした、兄……隨分血の少い兄のもとで弱い身體を一生懸命に使つてゐました

か遂に大正七年十月八日に死にました。そして其後同家には不幸がつゞいておばあさんが八年の九月に、與市の妻が九年の四月に、與市は五月に死にました。與市と與市の妻とは肺病であつたので世話するものがなかつたので葬式もまんぞくにせずに埋みました、其の家は賣られてもうありません、高等科を卒業したばかりの長男は松之助の家に厄介になつてゐます、實に〳〵あはれな有樣になりました。

ついあなたには關係のない事にまで話し出しました、然し〳〵同家が三年の中に四人死にまして其の悲慘は生き殘つてゐる子供にまで及んでゐますが、此の四人の中で一番幸福なのは平五郎です、平五郎は社會からも親や兄弟からも病氣や過去の罪の爲めにいやがられて居ましたが、平五郎の心は力强い佛樣に賴つてゐました、どんな辱しめも苦痛も平五郎には大して感じませんでした、病氣でゐる時、死ぬ少し前に見舞ましたが只稱名をとぶばかりでした、平五郎は外の人が見る樣に其心の中は苦しくはなかつた樣です、花やかに暮してゐる世間の人の心中よりも平五郎の心の中は有がた

く樂しく暮してゐた樣です、私は平五郎の有樣を見てみ佛のお慈悲のあつい事惡人めあてとおほせられし事の實際と監獄教誨の有がたさとを思はせていたゞきました。

あなたの事を新聞で見てかなしんだのです恥かしく思つたのです、報謝參りに行つたり、人の集つてゐる所で其の話が出ると人は何とも思つてゐないのに私の心の中では穴へでもはいりたいやうな心持ちになつたのでした。

然るに……お恥かしや私の事や公の事が忙しいのにつけ世間の噂さがなくなるにつけあなたの事も心にかゝらなくなつて來たのです、あなたが苦役してゐなさる姿も私の眼からだん〳〵消えていつたのです、典獄樣や教誨師樣のお骨折も忘れてしまつたのです、……私は始は寺と青年會と在鄕軍人會とに盡してゐましたが小學校に代用で出る事になつて次で校長として兒童を教養する事になり、實に〳〵忙はしい身となつたのです。此頃もあちらこちらから來た手紙か十何本もたまつてゐますがまだ返事を書くひまがないのです、內では子供の世話やら掃除やら讀書やらで夜の十二時まで眠

らずにいてもまだ仕事が方づきません、米をつくのも此頃は勞働を奬勵する目的で自分でつきます、明日の日曜には少し澤山つくつもりでゐます、こんな具合で隨分忙はしいのです、手紙でも一寸書きはぐれると一年も二年も忘れてしまうのです。

兎に角すまぬ事ですが私はもうあなたの事を忘れてゐた。然るにお母さんが來てあなたの手紙を見せて下した、私は懺悔せずにはゐられなくなつた。また喜ばずには居れなくなつた。

有がたい〳〵私はこんな有がたい事はない。私は知らずにゐた、忘れてゐた、しかしみ佛はあなたの事は少しもお忘れなかつた、教誨師樣をわづらはしてあなたにお慈悲をお傳へになつた、典獄さんによつてあなたの心に光明をそゝがれた、あの送られた參圓其の中からの五拾錢誠に有がたく尊く嬉しくいたゞいた、寺の會計を一人でしよつてゐる、大倉や酒井の千圓よりも一萬圓よりも尊くいたゞいた。

あなたの心にお慈悲がいただけた事はまたこのお金以上に嬉しい有がたい、あなた

の心の罪は消えた、あなたの心は清くなつた、よし身體は恥かしい所にあつても心は清くなつた。たとへ人はどんな眼で見るか知れぬが御佛のお眼からは、もはや清きものと御覽遊しておいでになる、否み佛は清くせねばおかれまいと私は信ずる、お互人間の心は自分で考へて見ると死ぬまで清くなるやうに思はれん、また實際清くはならん清くならん心を光明で清くしていたゞくのです。あなたの心が清くなつたのではない、あなたが改心したのではない、あなたの改心はみ佛にさせていたゞいたのです、私等はみ佛のお慈悲を喜ばせていたゞく程自分の罪の深い事、迷の身である事、つまらぬものである事が知らしていたゞける、また自分の罪の深い事つまらぬ事がわかればわかる程お慈悲がありがたくなります。……あゝつい〳〵色々申しましたがこのやうな事は教誨師様からくれ〴〵もお聞きでせう、私は一人の新らしい親しい御同行の出來た事を有がたく思ひます。あなたは肉體は監獄にありますが、御開山様の共同行です、教誨師様や私や恐れ多い事ですが善智識様も同じく御開山のお同行です、こ

んな有がたい事はありませんじやないですか、南ムアミダ佛、、、、、、、お金も當てになりません三ケ野の金持連中は二十何軒が昨今差押へをせらるゝやうで大騒ぎです株の失敗です、金殿玉樓も羨むにたりません成金連中の金殿玉樓はもう約んど皆人手にうつりました、まことの寶は「お慈悲のみ」です、どうぞ〳〵喜ぶ上にも喜んで下さい。

あなたがお慈悲喜ばるゝ事はやがてお母さんにお慈悲喜ばす事になるでせう、さうなれば誠に〳〵此上なき有がたい事です。

まだ〳〵申し度い事はつきませんが用事にせまられ筆とめます、すこやかに、お念佛喜んで下さい。

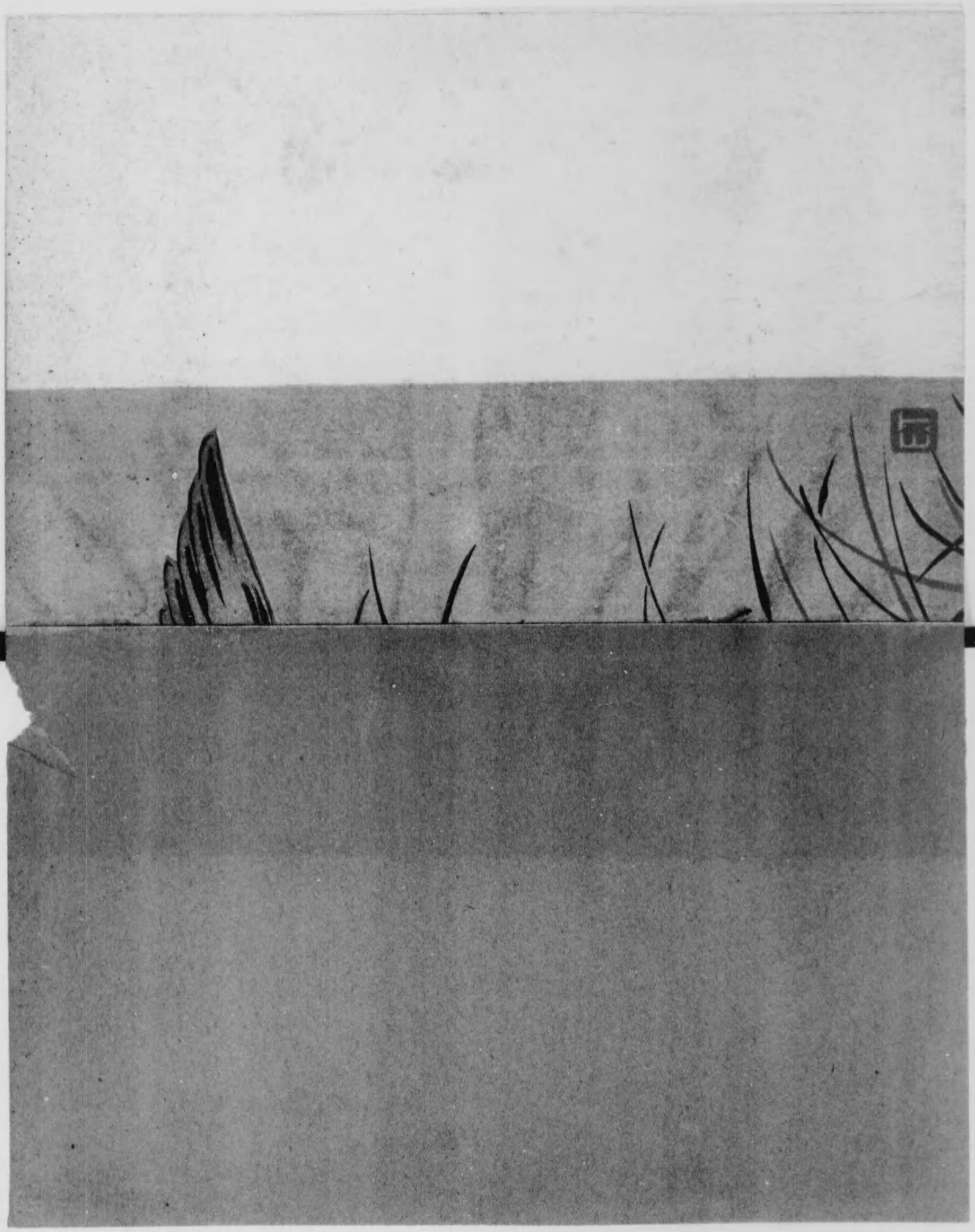
南ムアミダ佛

大正十年十一月二十日印刷
同　年　[illegible]月[illegible]日發行

恩愛のたより
定價金壹圓貳拾錢

編著者　田中秀寶
發行者　東京市牛込區市谷富久町六〇番地　北島良吉
印刷者　東京市四谷區愛住町二番地　磯村政富
印刷所　東京市麴町區飯田町五丁目廿三番地　精藝出版合資會社
賣捌所　東京書院　電話番町四〇〇八番　振替東京七九八三番
發行所　監獄協會　電話銀座二三四四番　振替東京二五〇五九番

不許
復製



353
7

11230

終